



今月から数回、免疫のお話をします。免疫という言葉は「健康を考えると...」

先日、日本観光協会総会において、今やヘルスツーリズムの発案の町として国土交通省に認知されるようになった上士幌町のイムノリゾート構想のお話をしたところ、多くの観光関係者からお褒めの言葉を頂戴することができた。小生は、本来、癌やアレルギーに対する免疫療法を研究している免疫学者です。しかし、その免疫学者が花粉症疎開ツアーを提唱した理由は二つあります。

一つは、先進国における花粉症の増加は体内環境(免疫バランス)の破綻に起因した大問題であることを国民に啓発すること。もう一つは、花粉症疎開ツアーをきっかけに「健康を考える観光」の基盤を整備し、サミットにも影響を及ぼすような北海道独自の観光スタイルで地域活性化を図りたいという気持ちからである。

北海道の「健康を考える観光」拠点づくりを目指したイムノリゾート構想

アレルギーの増加が警鐘をならす現代人の体内環境の破綻 あなたの子供の免疫バランスは大丈夫ですか？

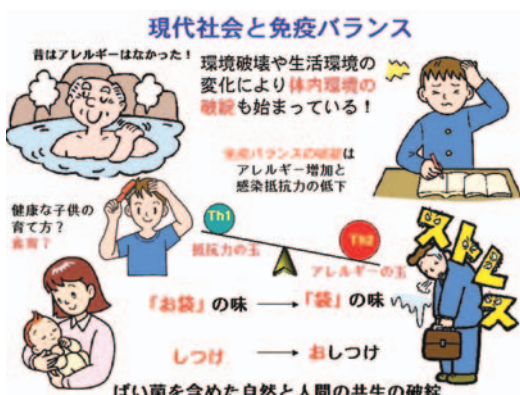
西村 孝司



まり耳にしなかったし、花粉症も大きな問題にはなっていない。それが、この30〜40年間にアレルギーに罹患する子供が増え、今では国民の20%がスギ花粉症で、約40%

我が小さい頃にはアレルギーという言葉はあり。1970年以降に生まれた人の90%は何らかのアレルギーに対する感受性を示すアレルギー予備軍であることも報告されて

いる。北大医学部の学生100人のうち、90人がアレルギー体質の目安になるIgE抗体を保持している。北海道は食物アレルギーの罹患率が全国1位という結果も出ている。アレルギーの増加は先進国でのみ問題になっており、インドでは殆ど問題になっていない。中



国では日本を追いかけるようにアレルギー人口が増加してきている。これは、環境破壊とともに、体内環境が破綻し始め、免疫バランスが異常をきたしているため起こっていると考えられる。我々の体には免疫という仕組みがあり、異物の侵入から体を守っています。癌や感染症に対する抵抗力やアレルギー反応もこの免疫でコントロールされている。免疫バランスは、免疫抵抗力を高めるために必要なTh1細胞が優勢影響を受けている

の全てが、アレルギー体質を作り出すTh2免疫を高める要因になることが報告されている。最近「お袋の味」から「お」がとれて「袋」の味になったという。そして、そのとれた「お」の字は「しつけ」について「おしつけ」になったという。母親の愛情弁当ばかりの劣悪な食事で、毎日「おしつけ」の勉強なさいというアドバイスで、子供たちにもストレスがたまり、免疫バランスが悪影響を受けている

と、アレルギーを高め、抵抗力を弱めようとするTh2というヘルパーT細胞によって制御されている。何らかの要因で免疫バランスが破綻してTh2の方向に偏向すると、感染抵抗力(Th1の力)が弱くてアレルギー体質(Th2の力)をもつた子供になってしまう。アレルギーを高め、抵抗力を弱めようとするTh2というヘルパーT細胞によって制御されている。何らかの要因で免疫バランスが破綻してTh2の方向に偏向すると、感染抵抗力(Th1の力)が弱くてアレルギー体質(Th2の力)をもつた子供になってしまう。

地域の取組 温泉街の活性化

函館の川温泉



園園亭で聴... 約50のプログラムを企画しました。

「おいしいお出かけ」。各プログラムにランチやスイーツがついていたりと、お値段的にお得だったり、それぞれ「おいしい体験」が出来るように約70の企画をご用意しました。第1回に引き続き人気だった「料理長が教える料理教室」や温泉ならではの「温泉卓球大会」、歴史散策ツアー等の他、湯の川を飛び出して函館近郊や海を越えてお出かけするプログラムも新たに加わり、中でも

11月11日まで。第3回は10月27日から

湯の川温泉では昨今の旅行形態の変化などに伴い、ここ数年宿泊客の漸減傾向が続く状況となっています。このような状況を踏まえ、湯の川温泉街のさらなる活性化を図るため、函館観光の「宿泊施設」から脱皮し、エリアの特性と既存施設を

「オンパク」による温泉街の活性化を目指して!!

2006年10月に開催した第1回のテーマは「温・故・知・新」。歴史ある湯の川温泉の古きを知り、新たな発見をしてみようことをメインテーマに、湯の川温泉街や園園亭となった香雪園を中心

「おいしいお出かけ」。各プログラムにランチやスイーツがついていたりと、お値段的にお得だったり、それぞれ「おいしい体験」が出来るように約70の企画をご用意しました。第1回に引き続き人気だった「料理長が教える料理教室」や温泉ならではの「温泉卓球大会」、歴史散策ツアー等の他、湯の川を飛び出して函館近郊や海を越えてお出かけするプログラムも新たに加わり、中でも

湯の川温泉では昨今の旅行形態の変化などに伴い、ここ数年宿泊客の漸減傾向が続く状況となっています。このような状況を踏まえ、湯の川温泉街のさらなる活性化を図るため、函館観光の「宿泊施設」から脱皮し、エリアの特性と既存施設を

「オンパク」による温泉街の活性化を目指して!!

2006年10月に開催した第1回のテーマは「温・故・知・新」。歴史ある湯の川温泉の古きを知り、新たな発見をしてみようことをメインテーマに、湯の川温泉街や園園亭となった香雪園を中心

「おいしいお出かけ」。各プログラムにランチやスイーツがついていたりと、お値段的にお得だったり、それぞれ「おいしい体験」が出来るように約70の企画をご用意しました。第1回に引き続き人気だった「料理長が教える料理教室」や温泉ならではの「温泉卓球大会」、歴史散策ツアー等の他、湯の川を飛び出して函館近郊や海を越えてお出かけするプログラムも新たに加わり、中でも

が弱くて、アレルギーになりやすい子供が増加してきていると言える。小生が小学生の頃は98%以上であったツベルクリン反応の陽性率が、今は50%しかない。すなわち、生まれてから6歳になるまで感染抵抗力が完成しない子供が半分もいるという深刻な状態なのです。はしかの大流行やノロウイルスによる集団食中毒なども、現代の子供たちが、あまりにも綺麗な生活環境で育ち、泥んこ遊びもせず、ゲーム

「オンパク」による温泉街の活性化を目指して!!

2006年10月に開催した第1回のテーマは「温・故・知・新」。歴史ある湯の川温泉の古きを知り、新たな発見をしてみようことをメインテーマに、湯の川温泉街や園園亭となった香雪園を中心

「おいしいお出かけ」。各プログラムにランチやスイーツがついていたりと、お値段的にお得だったり、それぞれ「おいしい体験」が出来るように約70の企画をご用意しました。第1回に引き続き人気だった「料理長が教える料理教室」や温泉ならではの「温泉卓球大会」、歴史散策ツアー等の他、湯の川を飛び出して函館近郊や海を越えてお出かけするプログラムも新たに加わり、中でも



どろどろくろく

▲ミツイシソックス (函館地区) 水戸部 美 来さん 松浦 慶 子さん 野口 可 織さん

会員の購読料は会費に含まれています

北海道観光連盟 札幌市中央区北3条西7丁目1番地 緑苑ビル2階 TEL (011) 231-0941 FAX 232-5064

北海道さっぽろ「食と観光」情報館 札幌市北区北6条西4丁目JR札幌駅1階西通り北口 TEL (011) 213-5088 FAX 213-5089

北海道経済部観光のくにつくり推進局 札幌市中央区北3条西6丁目 道庁8階 TEL (011) 231-4111 (代) FAX 232-4120

観光のお問い合わせは